国臨協関信

HPアドレス　https://kanshinshibu.org

平成30年11月

事務局　〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者　岩崎　康治
編集委員　小関　燈・岡村　康子
中尾知江美
印刷所　東洋印刷株式会社
☎ 03-3352-7443

第46回国臨協関信支部学会報告

国臨協関信支部　事務局長　吉　田　茂　久

平成30年9月1日（土）に第46回国臨協関信支部学会が例年、国立国際医療研究センター病院5Ｆ大会議室をお借りして学会を開催しておりましたが、本年度は、東京都渋谷区代々木神園町にあり1964年に開催された東京オリンピックにおける選手村を改修して、1965年に青少年育成のための学習活動・研修活動のための場を提供することを目的に設立された国立オリンピック記念青少年総合センター（以下：国立オリンピックセンター）のセミナーホールをメイン会場として開催されました。

今年も昨年と同様に異常気象で、7月の豪雨や複数の台風の上陸により各地に甚大な被害をもたらしました。また、連日の厳しい暑さや各地域で散発的に発生するゲリラ豪雨などの影響による交通機関の乱れなどで学会開催への影響を心配しましたが、当日は天候にも恵まれ、360名を超える会員の皆様にご参加いただき、一般演題43演題（内：新人セッション16題）と多くの方々にご発表いただき活発な質疑応答が行われ、セクション毎に座長よりベスト講演賞が選出され11名の演者の方が受賞されました。

学会セレモニーにおいては、学会賞（学術奨励賞・特別賞・新人賞）は、学会賞選考委員による厳正な審査の結果が岡村委員長より発表され、賞状及び目録（トロフィー）が授与されました。また、国臨協関信支部表彰として4名の会員の皆様が受賞され、ご臨席いただいた出井美智子様（群馬地区会）、南雲功様（栃木地区会）に表彰状と記念品が授与されました。

例年激しい順位争いとなる地区会コーナー優秀賞は、各地区会代表者（30名）による得票数1位の「千葉地区会」が受賞され、本年度より新設された特別賞には、選考の基準として地区会ポスター作製テーマ「新人会員の紹介を中心とした地区会活動報告」に沿って地区会ポスターを制作された神奈川地区会（得票数2位）が受賞されました。各賞を受賞された皆様おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、本年度は「次世代の臨床検査へ～知識・技術の継承と進化～」がテーマでした。昨今の医療技術の発展は目覚ましく、今後我々が日進月歩の検査技術を積極的に導入し、精度の高い検査データにAIなどの新しい解析手法を用いた解析情報などの付加価値を付けて、臨床に提供していくことが求められつつあります。今学会では、まず、足元の知識・技術を再確認することを重要視し、本年度から発足した学術委員会にご協力いただき、学会企画として、セミナーホールにて生理部門による第一部「緊急対応の必要な心電図 その波形を見逃さないチェックポイント」を、第二部では12月からの「医療法等の一部改正」に対応するため、「SOPの作り方」について、第三会場では血液部門「Relight血液学～血液データから疾患・病態を知る。血液像を解析する知識を身につけよう」を開催し、多くの会員の皆様にご参加いただき、活発な意見交換が行われ成況裡に終了しました。

学会運営にあたりご協力いただいた実務委員の皆様、そしてご参加いただいた会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に学会運営を行うにあたり、PC機器のトラブルにより演題発表、分科会の聴講などに遅延が発生したことを深くお詫び申し上げます。

第46回　国臨協関信支部学会「学会賞」選考委員会報告

NHO新潟病院
岡　村　　治

今年度の学会賞選考委員会は、8月3日に国際医療研究センターにおいて技師長協議会、国臨協本部、国臨協関信支部、地区会代表として茨城地区会と群馬地区会、学術委員会の代表者6名にて抄録による一次選考を行い学術奨励賞候補、特別賞候補および新人賞候補を各々3演題選出しました。そして9月1日学会当日、時間配分、スライドの状況、発表態度、質疑応答の態度を評価する二次選考を行い、各賞を決定しました。

新人賞は「当センターにおける起立性調節障害試験の実施状況について」を発表された、国立成育医療研究センターの柗丸佳代先生を選出しました。起立性調節障害試験の陽性・陰性結果について分析し、検査時間帯による検査結果への影響について考察され、早期発見のために運用の変更をする対策が取られており、大変有意義な発表と思われます。今後もさらなる分析をしていただきたいと思います。

特別賞は「心臓リハビリテーションチームにおける臨床検査技師の役割」を発表された、NHO霞ヶ浦医療センターの津川志保先生を選出しました。患者の運動耐用能を評価するにあたり、新たな試みとして心臓リハビリテーションチームの一員として関わり患者のQOL向上に貢献できており大変評価できる内容と思われます。今回の内容に留まらず新たな領域へのチーム医療の参画を期待します。

学術奨励賞は「当園環境下での電解質測定について」を発表された国立療養所栗生楽泉園の國嶋雄太先生を選出しました。電解質の測定値が低値である要因に対して様々な視点で考察し、立地環境を含めた検証がされており学術的に非常に優れた発表であると思われます。内部精度管理は検査の質の担保をするうえで非常に大切であり、各施設においても参考になる内容と思われます。更なる検討を加え、国病学会や日本医学検査学会などに発表、論文投稿していただけることを期待しています。

受賞されました先生方、また施設の皆様、おめでとうございました。

学術奨励賞を受賞して

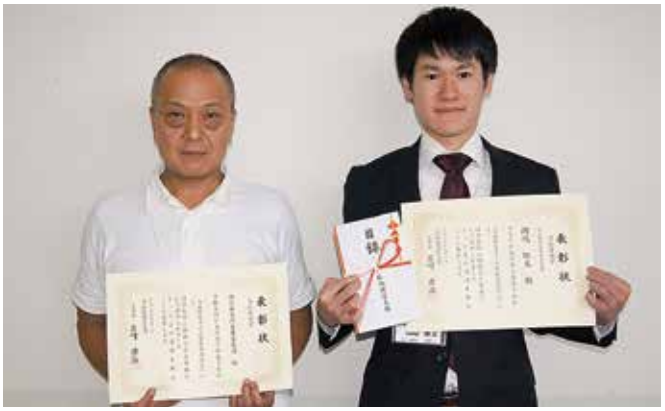
国立療養所栗生楽泉園
國　嶋　雄　太

第46回国臨協関信支部学会において、学術奨励賞という素晴らしい賞を頂き大変光栄に思います。

発表させて頂いた「当園環境下における電解質測定について」は、私が当園に採用されてからの内部精度管理において、生化学項目を全て1SD内に収める目標から始まりました。当初は、生化学自動分析装置を殆ど扱ったことがなく、不安でしかなかった私に、林副技師長からの手厚いご指導により、ほとんどの項目は1SD内で安定しました。しかし、電解質のナトリウムとカリウムは1～2SD以上継続して低い状態でした。自動分析装置の状態も良好で電極も問題が認められなかったことで、やはり環境の原因なのではと検査科内で意見が出ました。当園の立地環境は、標高1100mと高所に位置し、草津温泉の源泉を園まで引いているという他施設とは異なる環境下にあると言えます。温泉由来の硫黄ガス等により、電子機器の基盤の腐食による、検査機器の誤動作が発生すると云う事例もあり、当園の環境下において、解決しなければならない問題は他にも幾つかあります。この様な環境下でも今回の様に疑問を持ち、考え、諦めずに解決していく精神を持ち続け、質の高い検査を行えるよう精進していきたいと思います。

今回の受賞にあたり、日常の業務の中で問題意識を持ち、解決方法を模索する事の重要性をご指導してくださいました、清水前技師長、有次技師長、林副技師長また、様々な面でご協力いただきました、栗生楽泉園職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、学会を開催するにあたり、御尽力くださいました、岩崎学会長並びに国臨協関信支部役員の皆様と、学会運営にご協力頂いたスタッフの皆様に感謝申し上げます。



学会特別賞を受賞して

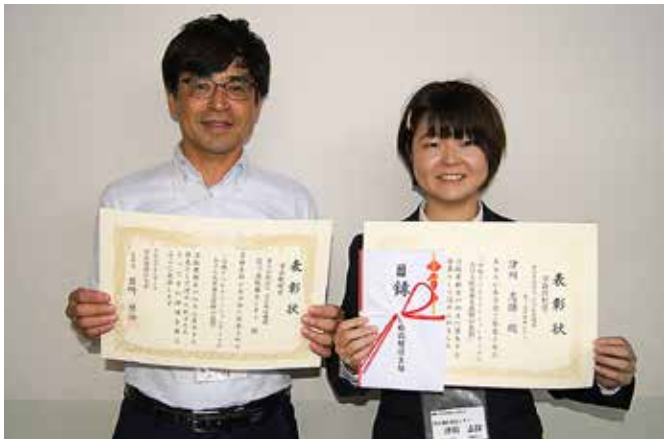
NHO霞ヶ浦医療センター
津川志保

このたび、第46回国臨協関信支部学会におきまして学会特別賞を受賞し大変光栄に思います。発表させていただいた演題は、「心臓リハビリテーションチームにおける臨床検査技師の役割」です。患者さんのQOL向上と維持の手助けとなる検査に携わり、その重要性を考えながら日々の業務に取り組んでいます。心リハチームに参画する機会にも恵まれ、カンファレンスに参加し多職種のスタッフと情報共有をする中で、チーム医療の必要性も改めて実感しています。そこで、当院での臨床検査技師の役割として実践していることをお伝えしたいと思い、今回発表させていただきました。

学会発表を行うにあたっては、第2回関信支部主催研修会にて学んだ事を参考に、わかりやすいスライド作成と、発表練習に特に重点をおいて準備を行いました。当日は手に汗握り、脈拍も150/分を超えるほど緊張した状態で壇上へと臨みましたが、練習の甲斐もあり無事に発表することが出来ました。

本学会での発表は、私ひとりではやり遂げることはできなかったと思います。学会特別賞というこの身に余る賞も、國仲技師長はじめ多くの先輩方の支えとご助言をいただいたおかげと感じております。心より感謝申し上げます。発表を評価して下さった方々に恥じぬよう、これからも自己研鑽に励みたいと考えます。今後も、今回の取り組みを糧にしてチーム医療における臨床検査技師としての役割を考え、主体的に活動していきたいと思います。

最後に、学会開催においてご尽力下さいました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。



新人賞を受賞して

国立成育医療研究センター
柗丸佳代

平成30年9月1日に開催された第46回国臨協関信支部学会におきまして新人賞を頂きまして大変光栄に思います。

私は「当センターにおける起立性調節障害試験の実施状況について」という演題で発表させて頂きました。

起立性調節障害（OD）の患者は症状があっても本人や家族がわからないことが多く、学校・家庭・患者におけるODへの理解がより進んでいくことが必要だと感じました。

私は当センターに勤務し2年目になりますが、子供との接し方など戸惑うことが多々あります。心電図の電極を装着しスタートボタンを押す瞬間に電極を全てはずされた事もあります。暴れまわる子や検査を嫌がる子をなだめて無事に検査が終わり、笑顔でいる姿を見ると、とても嬉しく思います。検査はわかりやすく、不安を与えないようにする事を心がけています。

また付き添いの親御さんとのコミュニケーションも検査を進めていく上で大切な事だと思います。大人だけでなく子供との接し方を学ぶ事は今後生理検査を実施していく上ではとても貴重だと思います。

今回、新人賞を頂けたのは技師長をはじめ副技師長、主任、検査室のスタッフの皆様のお陰です。

遅くまで抄録やスライドの指導を丁寧にして下さり、当日もとても緊張している中、心強いアドバイスと応援を頂き、落ち着いて発表ができました。ありがとうございました。

今回の発表を通して、検査への理解も深まり、より勉強をしなくてはならないと思いました。

最後になりましたが、学会を開催するにあたりご尽力いただきました国臨協関信支部の皆様に厚く御礼申し上げます。

地区会コーナー優秀賞を受賞して

NHO千葉東病院
山崎美保

平成30年9月1日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第46回国臨協関信支部学会が開催され、地区会コーナーにおいて千葉地区会が優秀賞を受賞することができました。

今年の地区会ポスターは「新人紹介を中心に地区会活動の様子」というテーマが設けられており、テーマに沿った千葉地区会らしいポスターを作製するため、検討を重ねてきました。千葉県は2020年東京五輪のサーフィン競技会場にもなっているため、サーフィンをもう１つのテーマとし、新人紹介や活動内容を作製しました。会員の方々の楽しそうな笑顔から千葉地区会会員の仲の良さが伝わるようなポスターになったと思っています。

今年のポスターも各地区会が趣向を凝らし、地域の特色を生かした素晴らしいものばかりでした。そんな中で優秀賞を頂くことができ、大変光栄に思っています。この賞を励みに千葉地区会がよりいっそう楽しく、絆の強い地区会になるよう努力していきたいと思います。

最後に、学会開催にご尽力頂いた国臨協関信支部役員の皆様はじめ関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

地区会コーナー特別賞を受賞して

NHO神奈川病院
中井敦子

平成30年9月1日（土）に開催された第46回国臨協関信支部学会ポスター展示において、地区会コーナー特別賞を受賞することができました。

毎年各地区趣向を凝らしたポスターが掲示される中、神奈川地区会は例年各々の病院で内容を作成していたため、ポスターにまとまりがありませんでした。そこで神奈川地区会に所属する5つの病院で1つの作品を作り上げようと作成が始まりました。レイアウトから背景の写真、文字や色、その他のアイデアを出し合い、感想も各理事が自施設の会員に聴取するなどし、修正を７回繰り返し完成させました。残念ながら優秀賞は逃してしまう結果となりましたが、来年こそ優秀賞を受賞できるよう、より特別な気持ちで頑張ります。この賞を励みに神奈川地区会を会員みんなでさらに盛り上げていきたいと考えています。

最後に、学会にご尽力頂きました国臨協関信支部役員の皆様をはじめ、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

ベスト口演賞を受賞して

NHO東埼玉病院
阿部寿哉

この度、第46回国臨協関信支部学会におきまして、ベスト口演賞を頂き大変光栄に思っております。

発表した演題は「当院における抗酸菌液体培養雑菌再処理の検証」です。当院では液体培養において抗酸菌以外の細菌により陽性となった検体はNALC-NaOH液による雑菌再処理(アルカリ処理法)を実施し再培養を行なっていました。しかし、アルカリ処理後も雑菌検体を認め、雑菌再処理による手間やコストにおいて負担となっていました。そのため、酸性前処理液「アシッドプラス(極東製薬)」を使用した雑菌再処理(酸処理法)を実施し比較検証を行いました。結果、酸処理法の方が優位に雑菌を低減させることが可能となり、日常業務の負担軽減にも繋がっています。

昨年に続き２度目の受賞に至ったのは、多くのアイデアや助言を頂きました渡辺技師長、沼田副技師長をはじめ検査室の方々のご協力のおかげであり、心より感謝しております。

最後に、今学会を開催するに当たり、ご尽力下さいました国臨協関信支部役員および関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

ベスト口演賞一覧

●第一会場

02 口腔外科領域における超音波検査の取り組みとまとめ
NHO 栃木医療センター　●酒井愛美

06 下肢腫脹例に対する PTP スコアと下肢超音波検査の有用性～D-dimer との比較検討～
NHO 宇都宮病院　●人見香奈

12 ホルター心電図のパニック値改訂時における報告症例に関する分析
国立国際医療研究センター病院　●中村良幸

15 心臓リハビリテーションチームにおける臨床検査技師の役割
NHO 霞ヶ浦医療センター　●津川 志保

19 生理機能検査室における ISO15189 導入への取り組みとその効果について
NHO 埼玉病院　●石井証吾

23 当院における採血室の業務改善への取り組み
NHO 東京医療センター　●田代恵莉香

●第二会場

28 XN9000 における PLT-F 測定の有用性について
国立がん研究センター中央病院　●鬼頭桃子

32 血清蛋白分画における薬剤（ダラツムマブ）の影響についての検討
NHO 渋川医療センター　●入澤弘輔

34 当園環境下における電解質測定について
国立療養所栗生楽泉園　●國嶋雄太

●第三会場

38 微生物検査技師による休日検査対応の導入効果について
国立国際医療研究センター病院　●田村沙枝子

43 当院における抗酸菌液体培養雑菌再処理の検証
NHO 東埼玉病院　●阿部寿哉

支部表彰を受賞して

NHO高崎総合医療センター　出井　美智子

この度、第46回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂き有難う御座いました。推薦して頂いた群馬地区会並びに関信支部の皆様に感謝申し上げます。

30数年前に国立療養所足利病院に賃金職員として採用されてから、栃木地区会の総会やレクリエーションに参加してきました。地区会活動を通して、他施設の後輩や先輩技師の方々と交流を持ち、多くのことを学ぶことができました。

臨床検査に40年近く携わってきて、検査技術の進歩を目の当たりにしてきました。新しい機器を使用する度、操作が簡単になる一方で新しい項目が増え、技師の技術が必要とされる検査も多くなっていきました。それらの技術を学んでいくのは大変でしたが､多くの先輩方に指導して頂き､検査技師として勤めることが出来ました。これまでの6施設で指導して頂いた多くの方に感謝いたします。

最後に国臨協関信支部の皆様の益々のご活躍を祈念してお礼の言葉とさせて頂きます。

国立成育医療研究センター　大　川　正　人

この度、国臨協関信支部東京山梨地区の推薦をいただき、国臨協関信支部表彰を頂くことができました。地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。

昭和57年４月国立王子病院の賃金職員として採用され、36年間勤務させていただきました。就職した当時から、検査科は、検査依頼から検査結果の報告までを、迅速かつ正確に行うこと、患者さんには丁寧な対応をこころがけることを指導され、今日まで、精度の高いデータを提供できるように精度管理への取り組みを大切にし、日頃の検査に役立てるように、関信支部学会、研修会等に参加できたことが、日々の検査に繋がっていると感じております。

群馬地区会長と茨城地区会長を、そして、今年度は東京山梨地区会長を勤めさせていただいております。改めて地区会員の皆様との出会いに深く感謝いたしております。また、会員の皆様の暖かいご指導ならびにご協力をいただき、ありがとうございました。紙面をお借りして感謝申し上げます。最後に、国臨協関信支部役員、ならびに会員の皆様のご健康と益々のご活躍を祈念してお礼の言葉とさせて頂きます。

NHO神奈川病院　児　玉　徳　志

この度、第46回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂きました。推薦して頂いた神奈川地区会と関信支部役員の皆様に深く感謝申し上げます。昭和57年5月に国立病院医療センターに採用されてから36年が過ぎました。最後まで務められたのは良き先輩と優秀な後輩に恵まれ、ご指導と助言を頂いたおかげだと感謝しています。

関信支部との関わりは、平成7～10年の４年間事務局を担当していました。当時の役員は一太郎と花子の世界で、Macintosh LC630を購入したばかりの私は、Mac版一太郎を買い求めた記憶が懐かしく感じられます。

最後に私も戒めにしてたのですが、諺に「聞くは一時の恥、聞かずは（知らぬは）一生の恥」があります。先輩技師にウザがられるかもしれませんが、疑問は納得できるまで調べ追求してください。もう一つ、Macの創設者のスティーヴ・ジョブズ氏がスタンフォード大の卒業記念スピーチで言った「Stay hungry,Stay foolish.」を送ります。国臨協関信支部の益々の発展を祈念し、お礼の言葉と致します。ありがとうございました。

NHO栃木医療センター　南　雲　　功

この度は第46回国臨協関信支部学会におきまして支部表彰を頂き、誠にありがとうございます。この様な栄誉は自分には縁がないと思っておりましたので、嬉しさよりも何となく恥ずかしい気分でございます。支部学会は46回とのことですが、表彰状を手にして浮かんでくるのは、検査技師として採用された旧・国立水戸病院で地区会役員として活動した1980年代当時のことです。インターネットはまだ整備されておらず､通信手段はもっぱら電話と手紙で、業務終了後、地区理事会へと高速道路を車で飛ばした記憶が蘇ってまいります。当時の茨城地区会は県内3施設にとどまらず、栃木地区会員と宿泊交流会を相互に行っていました。他施設との交流に関しては現在より活発であったかなと思います。今回賞を授かったのは自分個人の力などではなく、会員の皆様の協力と支えがあったからこそだと深く感じております。今後の支部会の益々の発展を希望致しまして挨拶と代えさせて頂きます。

《学会企画》学術委員会による分科会に参加して（生理部門）

NHO宇都宮病院
黒　澤　智　子

平成30年9月1日（土）国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第46回国臨協関信支部学会が開催され、学会企画である学術委員会による分科会（生理部門）に参加させていただきました。

生理部門の分科会は2部構成で行われ、第１部では千葉医療センターの池田和典先生より「緊急対応が必要な心電図－その波形を見逃さないためのチェックポイント」と題してお話がありました。まずスライドに映し出された心電図波形を供覧し、緊急対応が必要か否かを会場の参加者が答え、最後に読影ポイントや対応方法について丁寧に解説をしていただきました。見逃してはいけない緊急度の高い危険な波形を再確認する非常に良い機会となりました。

第２部では国立精神・神経医療研究センター病院の竹内豊先生より「SOPの作り方－心電図検査標準作業手順書作成事例より－」と題して、3つの施設での作成事例を比較しながら解説をしていただきました。現在、自施設でもSOP作成に取り組んでおりますが、生理部門は具体的な情報が少なく、どのように書いたら良いのか四苦八苦していた私にとって、まさに渡りに船のお話でした。3施設の事例を比較したことで同じ項目でも様々な書き方があることが明確になり、非常に参考になりました。そして、いきなり完璧なものを目指すのではなく、まずは自分の施設事情に沿って土台を作成し、徐々に追加しながらより良いものに進化させていくことが重要であると学びました。今回の企画を通して得た情報を活用し、自分の施設ならではの手順書を地道に作り上げていきたいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中、分科会を企画・開催してくださいました学術委員会の皆様、ならびに関信支部役員の皆様に、深く御礼申し上げます。

《学会企画》学術委員会による分科会に参加して（血液部門）

NHO下志津病院
草　間　　亮

平成30年9月1日(土)、オリンピック記念青少年総合センターにおいて第46回国臨協関信支部学会が開催されました。今回は、新たに発足した学術委員会による企画となり、「Relight血液検査学～血液データから疾患・病態を知る。血液像を解析する知識を身に付けよう～というテーマで学術委員会の先生方からご講演いただきました。

血液検査は貧血や炎症、血液造血器腫瘍など様々な疾患の病態を判定するのには不可欠な検査です。血液データからいかに疾患や病態を読み取ることができるかという検査技師としての知識や技術の基本を確認しながら参加しました。

国立がん研究センター東病院秋江健太先生の講演では、血液データを数値的に判断するだけではなく、スキャッタグラムやフラグメッセージから赤血球や血小板の凝集や異常細胞などの読み取り方を教えていただき、大変勉強になりました。

高崎総合医療センター白井洋平先生の講演では、血液像を目視する際の細胞判別のポイントや、特徴的にみられる細胞などを教えていただき、疾患との関係を再認識することができました。

水戸医療センター谷岡健作先生の講演では、今後、自動血球分析装置などの検査機器の進化はさらに進み、AIが導入される時代が来るということを聞き、その次世代の臨床検査に向け、検査のスペシャリストとして、得た検査データを読み取る知識や技術を身に付け、必要な情報を臨床へ提供できるよう今後も知識のさらなる向上に努力していきたいと改めて思いました。

最後になりますが、お忙しい中ご講演賜りました学術委員会の先生方、ならびに開催・運営にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成30年度関信支部ビアパーティに参加して

国立がん研究センター中央病院
桂　木　佳　奈

平成30年7月21日(土)国立がん研究センター中央病院新研究棟1階大会議室において開催された第２回国臨協関信支部研修会終了後、京橋にてビアパーティーが開催されました。連日の猛暑がニュースで報道される中、当日も東京は最高気温35度と日差しがきつく、乾杯のビールがとても美味しく感じられました。199名の会員が参加され、会場は大盛り上がりでした。私は今回初めてビアパーティーに参加しました。最初は緊張していたのですが、美味しい料理と、先輩方との楽しい会話にお酒も進み、だんだん気持ちがほぐれていきました。会員の皆さんの多くは自らの席を離れ、他施設の方とお話しされており、私も同じ施設の新人達と一緒にビールをもって他施設の方々にご挨拶させていただくことができました。諸先輩方の経歴や経験のお話を聞くことができ貴重な時間を過ごすことができました。その後、施設ごとの自己紹介がありました。遠方、長野・山梨の施設からも来られており、それぞれの施設の魅力と個性あふれる新人紹介をしていただきました。私も皆さんの前に立ち、ご挨拶させていただくことができました。皆さんお話上手で気さくで、アットホームな会となり国臨協関信支部が一つの大きな施設のように感じられました。施設は異なり、離れていても臨床検査技師として病気に立ち向かうという同じ使命・目標に向かって日々仕事をしている仲間であるのだということを実感し、心強く思いました。あっという間の２時間で、まだ皆さんとお話し足りない気持ちでいっぱいで、来年も是非参加したいと思っています。

最後になりましたが、今回の交流会を企画・開催してくださいました関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

第２回関信支部主催研修会に参加して

NHO霞ヶ浦医療センター
津　川　志　保

平成30年7月21日(土) 国立がん研究センター中央病院において、第2回関信支部主催研修会が開催されました。講師にアボットジャパン株式会社診断薬・機器事業部コマーシャルトレーニングマネージャーの山田逸枝先生をお迎えし､「伝達力を高めるプレゼンテーションの基礎」と題して御講演いただきました。

私が発表する機会は今までにもありましたが、プレゼンテーションの基礎を学ぶことはありませんでした。今回聴講させていただき、初めて知ること、改めて感じることが多くありました。特に気付きを得たのは次の３つの点です。１つ目はフォントの大切さです。実例や特徴を交えて比較していただき、書体によって受け取る印象が大きく異なることを実感しました。ゴシック体は視認性が高く、明朝体は可読性が高いということ。これまで当たり前のように使われていたものが、実は意味のある事だと知り驚きました。２つ目はプレゼンテーションのプロセスです。シナリオ(原稿)を作ってからスライドを作成する。これまでスライド作成を優先にしていましたが、この順序ではとりとめのない発表になってしまうので、今後はプロセスを変えて試みようと思います。３つ目は練習の重要性です。視線や声の速度によって大きく印象が変わることを実践練習にて学び、何度も練習することが必須であると感じました。

今後、国臨協関信支部学会にて発表する機会がありますので、学んだ事を活かし人に印象を与える発表ができるよう準備したいと思います。

最後になりましたが、ご多忙の中御講演を頂きました山田先生、並びにこの研修会を企画・運営いただきました国臨協関信支部役員の皆様に深く感謝申し上げます。

地区会だより

関信支部東京地区会文化交流会に参加して

NHO東京病院
早　川　真奈美

平成30年5月19日に国臨協関信支部東京地区会の文化交流会が、サントリー<天然水のビール工場>東京・武蔵野ブルワリーで開催されました。

工場見学ツアーでは「職人の思いを馳せる」をテーマに製造工程を見学し、出来たてビールの試飲をしました。見学ではビールの仕込み釜を間近で見ることが出来たり、使用されているこだわりのアロマホップの香りを楽しむコーナーなどがあり、とても楽しめました。

また自然食材を厳選していることや、環境保護に力を入れている事を知り、更にガイドさんをはじめスタッフの方の対応が気持ちよく、職員の向上心や職場の規律が感じられとても刺激を受けました。分野は違えども社会人として今後見習いたいと思いました。

見学後は塚田農場にて、鹿児島県の名産物や美味しいビールを頂きながら、新人紹介や役員紹介があり、様々な施設でいろいろな経験をされてこられた先輩の話を聞くことが出来ました。役員の方々の計らいにより座席をくじ引きで決め、普段なかなかお会いする機会の少ない他の施設の方々とゆっくりお話をすることが出来ました。

検査業務の中で自分の知識を高める為の勉強法までもアドバイスを頂き、本当に貴重な体験となりました。

また同期の中には、すでに目標を立て努力を始めている技師の方もいて、自分も臨床検査技師として向上心を持ち頑張らなければと改めて考える事が出来た一日でした。

最後になりましたが、このような交流会を開催して頂いた役員の方々に感謝致します。ありがとうございました。

関信支部長野地区会定期総会・研修会を終えて

NHO小諸高原病院
淺　野　太　貴

平成30年6月23日（土）NHOまつもと医療センターにおいて第33回国臨協関信支部長野地区会定期総会・研修会が開催されました。当日は多数の会員参加があり、来賓として北沢臨床検査専門職、関信支部から小関副支部長と白倉理事のご臨席を賜りました。

研修会では国立病院臨床検査技師協会 品質管理推進委員会委員長 前澤直樹先生より「ISO 15189の概要と医療法の一部改正に向けて」と題してご講演いただきました。

今般医療法の一部が改正され、今年の12月１日を期限とし、厚生労働省の定める要求基準に適合した標準作業手順書等を所持していなければならず、手順書を作成するにあたり理解しておくことが重要な項目である「トレーサビリティー」「不確かさ」「特性要因図などについて、分かり易くお話して頂きました。

続きまして北沢臨床検査専門職より「伝達事項ならびに会員の皆様に向けて」と題して機構の現状や主任登用試験、各種認定資格、日々の業務に携わる心構えなどについてご講演をいただきました。検査に関する知識以外に、個々の柔軟性、コミュニケーション能力が大変重要視されており、その能力が周囲・組織に与える影響が大きいことを再認識しました。定期総会では関信支部の小関副支部長よりご挨拶を頂き、引き続き活動報告がされました。議案審議は滞りなく進行し、総会は無事に終了致しました。閉会後は完成したばかりの検査室内を見学させていただきました。前澤技師長指揮の元、検査機器のデータ取り等休日返上で行い、開院日に漕ぎ着けたとお聞きし、検査科スタッフ全員のご苦労が伺えたと同時に、真新しい職場環境が羨ましくも思えました。その後場所を移しての懇親会では、多くの会員の皆様と楽しい時間を過ごし、より一層の親睦を深めることが出来ました。

最後になりますが、ご講演いただいた先生方、企画・開催にあたりご尽力いただいた役員の方々に心より感謝を申し上げます。

平成30年度　長野地区会　理事

会　　長　佐　藤　成　彦（ＮＨＯ東長野病院）
副 会 長　淺　野　太　貴（ＮＨＯ小諸高原病院）
庶　　務　淺　野　太　貴（ＮＨＯ小諸高原病院）副会長と兼任
広　　報　宮　沢　宏　也（ＮＨＯ信州上田医療センター）
会　　計　清　水　良　祐（ＮＨＯまつもと医療センター）
会計監査　植　松　明　和（ＮＨＯまつもと医療センター）

地区会だより

関信支部千葉地区会定期総会・研修会を終えて

NHO千葉医療センター
丸山菜摘

平成30年7月7日(土)国立国際医療研究センター国府台病院において、第37回国臨協関信支部千葉地区会定期総会・研修会が開催されました。来賓として、関東信越グループより北沢臨床検査専門職、国臨協関信支部より岩﨑支部長と岡村常任理事にご臨席賜りました。

定期総会では議長に選出されたNHO千葉医療センターの宮澤副技師長による進行のもと、平成29年度各種報告、平成30年度事業案、および新役員の選出が審議され、会員の承認をもって無事終了しました。その後、岡村常任理事より関信支部活動内容などが紹介されました。

続いて、研修会では「伝達講習」と題して、北沢臨床検査専門職から国立病院機構の概要、各種認定試験の取得状況、主任選考試験についてなど多くの内容をご講演いただきました。自身のスキルアップのために研修や認定試験を積極的に受けていきたいと感じました。

続いて公立学校共済組合 関東中央病院 臨床検査科・病理統括部長の岡 輝明先生から「石綿関連疾患の現状」についてご講演いただきました。石綿が原因で発症する悪性中皮腫は全身症状であり、有効な治療方法がないということに驚きを感じました。今後、増加傾向にある石綿関連疾患の早期発見に繋がる検査結果が出せるように中皮腫について症状や検査、治療方法等の知識を身につけていきたいと思いました。

総会・研修会終了後には懇親会が行われ、多くの会員と和気藹々とした雰囲気の中、親睦を深めることができました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演をいただいた岡先生、北沢臨床検査専門職、またご臨席賜りました岩﨑支部長、岡村常任理事、企画・開催してくださいました千葉地区会理事の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成30年度　千葉地区会　理事

会　長　小　川　　勝（国立国際医療研究センター国府台病院）
副会長　沼　田　ますみ（NHO下総精神医療センター）
理　事　笹　沼　美　香（国立がん研究センター東病院）
理　事　山　﨑　美　保（NHO千葉東病院）
理　事　柿　沢　愛　子（NHO千葉医療センター）
理　事　富　樫　瑞　輝（NHO下志津病院）

関信支部東京・山梨地区会定期総会・研修会を終えて

NHO東京医療センター
大内結衣

平成30年7月14日(土) 国立国際医療研究センター研究所会議室A・Bにて、平成30年度国臨協関信支部東京・山梨地区会定期総会・研修会が開催されました。

始めに定期総会では長田会長の挨拶を頂き、平成29年度の各種報告、次年度の事業方針などが審議され、会員の承認を持って無事に終了致しました。

続いて国立病院機構関東信越グループ医療担当臨床検査専門職北沢敏男先生から「伝達事項ならびに会員の皆様について」と題し、国立病院機構の概要や各種研修などについてご講演頂きました。スキルアップ研修など多岐に渡る研修が提供されている事を再確認し、それらを活用して自己研鑽に努める事が重要だと改めて思いました。研修会第一部ではロシュ・ダイアグノスティックス株式会社遺伝子診断部の坂本辰宇先生に「遺伝子抽出、増幅技術フローサイクリングシステムの紹介」についてご講演頂きました。将来、遺伝子検査に携わる事が考えられるため、PCRの手技・注意点などを基礎からご教授頂く事ができ、大変参考になりました。研修会第二部では株式会社日立製作所研究開発グループ基礎開発センターの坂入実先生に「尿中腫瘍マーカーによるがん検査の可能性について」と題しご講演頂きました。腫瘍マーカー測定を非侵襲的に行える事に驚き、また採取が容易な尿でのがんスクリーニング検査によって日本の検診受診率の向上に繋がる可能性があり、興味深く拝聴致しました。

最後になりますが、お忙しい中ご講演頂いた北沢臨床検査専門職、坂本先生、坂入先生、並びにまた会を企画・開催してくださいました東京・山梨地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

平成30年度　東京・山梨地区会　理事

会　長　大　川　正　人（国立成育医療研究センター）
事務局長　熊　谷　　豊（NHO甲府病院）
理　事　須　江　悠　人（NHO東京医療センター）
理　事　安　井　一　浩（国立成育医療研究センター）
理　事　屋　良　朝　仁（国立国際医療研究センター病院）
理　事　小　澤　理　利（NHO村山医療センター）
理　事　春　原　　悟（NHO甲府病院）

平成30年度 国臨協関信支部アンケート調査集計結果報告(抜粋)

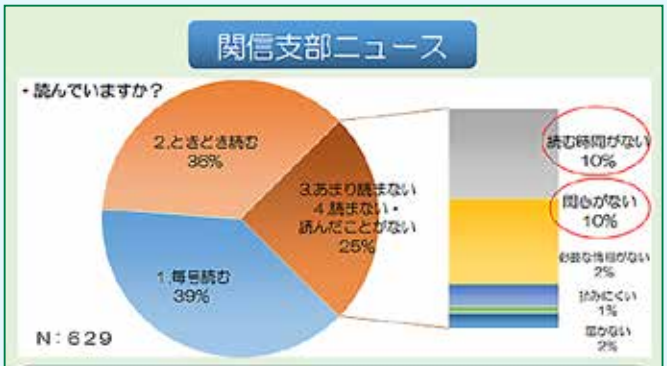
①目　　的 ： 会員皆様の意識調査を目的とし、
支部活動の充実化を図る。

②調査期間 ： 2018年6月12日（発送）
2018年6月28日（締切）

③調査対象 ： 関信支部会員　６４４名
（２０１８．６．１１時点）

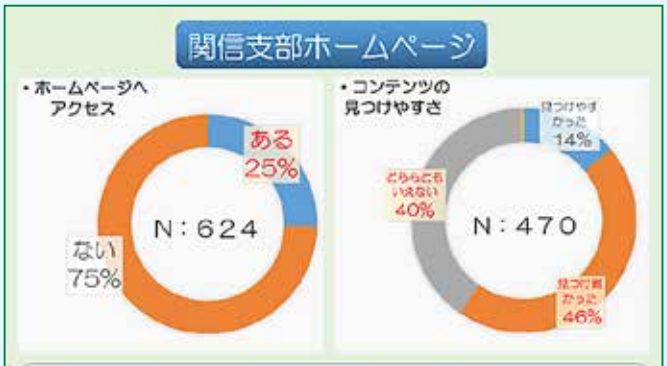
④回収状況 ： 回収数　６３０票
回収率　９８％
※　回収率（回収数／調査対象者×100）

50代男性が定年を迎える10年後あたりより関信支部の年齢・性別構成が大きく変わってくる事が分かると思います。主任候補者の育成等、若い人材の育成が現在の急務となっております。



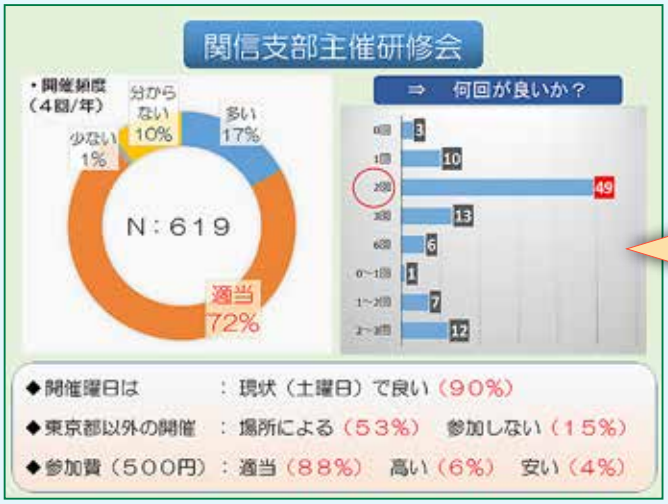
◆文字の大きさ　：適当（95%）
◆発行回数（4回）：今のままでいい（89%）
◆よく読む記事　：人事異動・地区会だより・覚えよう/身につけよう

今後はより会員の皆様に関心を持って頂ける様な内容の掲載を検討して参ります。



◆文字の大きさ：適当（93%）
◆役立ったか　：役だった（64%）どちらともいえない（34%）
◆よく読む記事：お知らせ・研修会・関信支部学会・関信支部予定

ホームページへアクセスした事が「ある」がなんと25%でした。
今後は、多くの会員の皆様へアクセスして頂く為に、様々な情報をいち早く提供出来る様努力して参ります。



◆開催曜日は　　：現状（土曜日）で良い（90%）
◆東京都以外の開催：場所による（53%）　参加しない（15%）
◆参加費（500円）：適当（88%）　高い（6%）　安い（4%）

今後はより皆様のお役に立てる研修会を企画するとともに、開催回数の見直し、アクセスの良い場所での開催等を検討して参ります。

詳しい結果報告はホームページに掲載いたします。

ご協力ありがとうございました!!

国臨協関信支部今後の予定

＊予定は変更となる場合がありますのでご了承願います。

月	日	曜日	学術部	その他	広報
11月	2日	金			支部ニュース 215 号
	9日	金		第72回国立病院総合医学会（神戸）	
	10日	土		第72回国立病院総合医学会（神戸）	
12月	1日	土	第3回　関信支部研修会		
2019年1月	12日	土		地区代表者会議	
	18日	金			支部ニュース 216 号
2月	23日	土	症例検討会		

第３回 関信支部研修会

日　時：平成30年12月1日（土）
　　13：00 受付
　　13：30～15：00（予定）
場　所：国際医療研究センター
　　研究所会議室A・B
内　容：【第１部】
　　講　師：手塚　俊介　氏
　　演　題：共用基準範囲推奨事業について
　　【第２部】
　　講　師：学術委員会　輸血部門
　　演　題：輸血検査におけるピットホール（仮）

症例検討会の症例公募について

本年度の症例検討会は平成31年2月に開催する予定です。症例を提示していただける施設がございましたら、下記連絡先までお知らせください。なお、提示症例につきましては、発表の有無および分野等の指定はありません。応募の締め切りは平成30年11月30日（金）とさせていただきます。

連絡先　国立研究開発法人
　　国立がん研究センター中央病院
　　病理・臨床検査科　中谷　穏
電　話：03-3547-5215　PHS 2916
E-mail：tnakatan@ncc.go.jp

写真募集

関信支部ニュース第216号（新年号）の表紙写真を会員の皆様から募集いたします。
採用された方には粗品を差し上げますので、奮ってご応募ください。（募集期限は11月30日（金）まで）

宛　先：NHO村山医療センター
　　臨床検査科　中尾　知江美
ＴＥＬ：042-561-1221（内線：222、223）
E-mail：nakao-chi-1968@hosp.go.jp

人事異動

【平成 30 年 9 月 30 日付　退職】

氏名	旧施設名	旧職名
大澤　俊之	NHO 霞ヶ浦医療センター	技師

【平成 30 年 10 月 1 日付　配置換え・採用】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
春原　悟	NHO 相模原病院	主任技師	NHO 甲府病院	主任技師
古田　学	国立療養所栗生楽泉園	主任技師	NHO 東長野病院	主任技師
浅川　千夏	NHO 甲府病院	技師	NHO 千葉医療センター	技師
内山　美樹	NHO 東長野病院	技師	NHO まつもと医療センター	技師
大塚　美咲	NHO 霞ヶ浦医療センター	技師	NHO 水戸医療センター	技師
國嶋　雄太	NHO 水戸医療センター	技師	国立療養所栗生楽泉園	技師
飯塚　裕大	NHO まつもと医療センター	技師	国立精神・神経医療研究センター病院	非常勤

編集後記

第46回関信支部学会では沢山の方にご参加いただきまして、ありがとうございました。トラブルもありましたが無事終わることができてホッとしております。さて、今年は台風に地震と災害の多い年となってしまいました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。皆様日々の備えは大丈夫でしょうか？私も見直してみようと思います。　広報部　岡村康子

学会企画　学術委員会による分科会　解説

生理部門

国立精神・神経医療研究センター病院　竹内　豊

今回の生理検査部門分科会は、心電図検査に焦点を当てた『緊急対応が必要な心電図―その波形を逃さないためのチェックポイント』と『SOPの作り方―心電図検査標準作業手順書作成事例より―』の2部構成で開催いたしました。

心電図検査は、ルーチン業務から日当直業務まで、誰もが日常的に行う検査です。

特に時間外の心電図検査は緊急性が高く、慣れない検査にもかかわらず、その場での判断や対応を求められる検査でもあります。第1部では、極端な頻脈や徐脈・ST変化・緊急性の有無など、知っておきたい心電図波形を供覧し、会場からの回答を基に、その判読方法を解説いたしました。講師と会場が一体となるような会場参加型の分科会であったと思います。

第2部ではSOP（標準作業手順書）の作り方について、心電図検査のSOP作成例を用いて解説いたしました。

一般的にSOPの要求項目は、検体検査用に策定されており、生理検査用に合わせた解釈が必要となります。そこで、ISO15189を取得した関信管内施設のSOP例を対比して、各要求項目について解説いたしました。特に施設間で記載が異なる部分や記載方法が分かり難い項目（環境及び安全管理・精度管理手順・可能性のある変動要因）については時間をかけて解説させていただきました。また、SOP作成のポイントについて、『各施設の専門性に特化した項目を詳細に記載すること』・『対応が可能な管理方法を採用すること』を強調し、施設に合ったSOPを徐々に作りこんで行くことの重要性を解説いたしました。

最後になりましたが、今後も会員の皆様に実りある企画を立案し、タイムリーな分科会を開催して行きたいと思っております。（山口部門長・池田・片桐・竹内）

血液部門

NHO高崎総合医療センター　白井洋平

今回、血液部門では学会テーマから「Relight 血液検査学～血液データから疾患・病態を知る。血液像を解析する知識を身に付けよう～と題し企画・発表を行いました。

内容は３つのセッションに分け、1つめのセッションでは血液検査の経験が浅い技師向けに「自動分析装置を使いこなす」と題し、血算や血液像を見る際に役立つ情報としてスキャッタグラム・粒度分布図に注目し、いくつかの症例を紹介しました。

２つ目のセッションでは、血液部門員の職場において行っている、血算・血液像の所見から疾患・病態・検査値の異常原因を推察する手法を紹介しました。異常値に遭遇した時どの様なプロセスで病態を推察するのか、検査結果を読み解く方法を提示しました。

３つ目のセッションでは「血液検査の今後の展望」として、医療業界でも活用され始めているAIの話題を取り上げました。今後販売予定のAI技術を搭載した血球分析装置を紹介し、AIとDeep Learning（深層学習）についても簡単に説明しました。

今後、臨床検査の分野においても、AI等の新技術が導入されていくことが見込まれます。最新の医療機器・装置、医療コミュニケーションツールがどんなにも革新的であっても、時代の流れに取り残されない為に、機械からの情報だけではなく、それを読み解く知識・経験・情報等を身に付けることが非常に重要な要素となってくるでしょう。

今回の血液部門からの発表を通して、基礎からの知識・技術の継承と進化に触れ、明日からの日常検査において少しでも参考にして頂けたら幸いです。